

弘済会そくほう

令和元年10月号
発行
公益財団法人
日本教育公務員
弘済会 岐阜支部
Tel 058-272-9513

提携保険会社
ジブラルタ生命保険
株式会社
営業所電話番号
岐阜第1・2営業所
058-267-6006
大垣営業所
0584-83-4500
関営業所
0575-22-3793
美濃加茂営業所
0574-25-3658
多治見営業所
0572-21-3732
中津川営業所
0573-65-3517
高山営業所
0577-32-1623

申請締切迫る！！ お急ぎください

教員免許更新講習補助 申請締切後は補助できません

本年度の補助対象者の申請期限 **令和元年12月10日**
(但し、「修了確認証明書」の交付日が令和元年12月1日以降の場合、令和2年2月15日締切)

対象：平成32年3月31日が**修了確認期限**（新免許状の場合は、有効期間満了日）となっている方を対象とする「教員免許更新講習（第10グループ）」を受講し、修了確認が完了した**教弘会員**

内容：図書カード（3千円）を補助
<該当の有無を確認する方法>

修了手続き後に県教委から送付された「修了確認証明書」の「**次回の修了確認期限**」が**平成42年（令和12・西暦2030年）3月31日**となっていること

<注意事項>

第1グループ（修了確認期限が平成33年3月31日となっている方）の申請は、**令和2年4月1日**からになります。

教弘保険

本年8月末迄の新規加入者件数 全国で12,985件

弘済会岐阜支部は、教弘会員の拡大により岐阜県教育の振興に貢献できることを願い、教育振興事業を展開しています。また、会員の皆様の生活に安心と潤いをお届けできるよう福祉事業・共済事業を展開しています。教育振興事業では、「最終受益者は子どもたち」の理念の下で毎年度拡充されており、学校研究助成、特別学校助成（教育図書等の贈呈）等を通じて教材・教員等を贈呈しています。

教弘保険は 学校及び教育委員会にお勤めの教職員の皆様しかご加入いただけません。生命保険です。



今年度末年齢が「20歳・30歳・40歳・50歳・還暦・古希・喜寿・傘寿」の教弘会員（11月1日現在の皆様）に「Tプライフ補助」として図書カード（2

Tプライフ補助 11月末発送予定

千円）をお贈りします。岐阜支部から所属（退職会員はご自宅）に送付しますので、同封されている受取書をFAXにて岐阜支部に返信してください。

弘済会の猪の独り言(34)

暫く前、公共施設に設置されている遊具の形状が変わりつつあるというニュースを耳にした。滑り台は紐状のものが引つかからないようにされたり、箱形ブランコは脚が椅子の下に挟まれないようにされたりなどの改善だ。学校の遊具についての程度改善が図られるのかは分からないが、児童生徒の安全確保が厳しく問われる時代だけに学校も大変だと改めて思った。



教員15年目。私は中1の学年主任を務めることになった。9月末に2泊3日の宿泊研修があった。当時も生徒の安全確保は重要なことであり、事前に学年会で計画を

検討した後、屋外での活動については実際に歩いたりして問題がないかを確かめた。特にオリエンテーリングでは、歩道の陥没の有無を確認したり地図の読み間違いを予想して教員が立つ場所を設定したりするなどかなり慎重な計画を立てた。万全の準備をして当日を迎えたと思ったら事故は起きた。1件目は、コース近くの公園でA男が箱形ブランコに乗り怪我をするという事故だった。電話連絡（まだ携帯電話もない時代、各班には緊急連絡用に10円玉を持たせていた）で駆けつけた。A男は、友人と二人で箱形ブランコに乗り、ふざけて右脚を椅子と底板の間に挟まれてしまったと言った（昔の箱形ブランコは、椅子と底板の間の隙間に脚が挟まることよくあった）。A男の右脚を固定して近くの救急病院へ運んだ。結果は右足の骨折だった。母親に連絡を入れ病院に来ていただき謝罪した。自然の家に帰り生徒達の帰りを待った。そこに2件目の連絡が入った。（裏面に続く）



弘済会岐阜支部は

教弘会員の皆様・ジブラルタ生命保険（株）のご支援により 岐阜県教育の振興に貢献

■ 2019年度 学校に贈呈した主な教材・教具等の状況

○ 特別学校助成（教育図書）の贈呈状況

幼稚園・こども園等	延べ 約 980冊の教育図書	総額 約 140万円
小学校	延べ 約2,700点の教育図書・教材教具	総額 約1,300万円
特別支援学校	延べ 約 750点の教育図書・教材教具	総額 約 308万円

○ 学校研究助成の贈呈状況

52校 総額 約1,040万円

主な助成品	大型テレビ	ノートパソコン	タブレット	等
	デジタルカメラ	プロジェクター	書画カメラ	
	電子ピアノ	英語の書籍	織機園芸用具	



○ へき地・複式学校教育支援の贈呈状況

26校 総額 約260万円

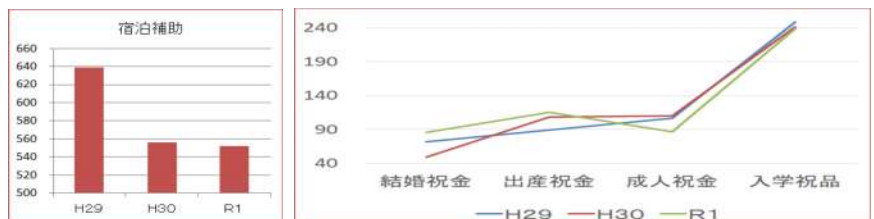
主な助成品	大型テレビ	パソコン	タブレット	デジタルカメラ
	プロジェクター	予定黒板	飛び縄練習台	ワンタッチテント
	ボッチャ用具	スケート靴	ノーパンク輪車	等

会員の皆様にお届けする福祉事業の状況（8月末現在）

○ 主な福祉事業申請状況（8月末現在）

宿泊補助	552
教員免許更新講習補助	176
書籍購入補助（年齢限定）	43
結婚祝金	86
出産祝金	115
入学祝品	239
成人祝金	87

○ 主な福祉事業申請状況の推移（過去3年間の8月末の比較）



何力所かのチェックポイント（以下、CP）の内、山から下りて平地に出た所の近くに設置したF地点の担当から「B子たちの班が未だ通過していない」と連絡が入った。途中までは問題なく通過していたが、F地点以降のCPは全て通過していないことが判明した。全員が通過し終えたCP担当者へコースを辿ってもらったが、B子たちの班は行方不明のままだった。「途中まではCPを通過していること」「平地に出れば人家もあり公衆電話を見つければ」とは難しくないと「等から考えて、「F地点とその手前のCPとの周辺にいる可能性が高い」と判断し、数名の先生に範囲を広げて捜索してもらったが見つからなかった。やがてあたりが暗くなり始めた。「学校に連絡し応援を集めて捜索しよう」と決断したその時、B子たちが自然の家に到着した。事情を聞くと、地図を持ったB子が地図も見ずに行ってしまったことが原因だと分かった。山道から平地に出た所には、道を間違えないようにと大きな左向きの矢印表示板を設置し、地図にも書き込んであったが、平地に出た途端に走り始めたB子を他の生徒が追いかけて、見当違いの方向に進んでしまったとのことだった。「おかしいと思い近くの方に尋ねて戻ろうとしたが予想以上に時間がかかった」「自分たちの失敗だから自分たちで何とかしようと思った」とも答えた。彼らが無事に戻り大事に至らずに済んだことをホッとすると同時に、「地図さえ見れば間違えるはずがない」まさかこんなところで」という想定外の出来事に、事前の予測の難しさを改めて思った。

事故が起きると「想定外の事故」という弁解がなされることが多いが、実際には「想定不足」に過ぎなかったのではないかと思う。この時も、普段のB子の姿から考えれば、自分の判断で行ってしまうことは十分予測可能だったと深く反省をした。

